

大気環境中のアスベスト濃度について

◆令和6年度の調査結果をお知らせします◆

横浜市では、市域における大気環境中のアスベスト濃度の実態を把握するため、平成 18 年度からアスベスト濃度調査を実施しています。

平成 22 年度からは、毎年市内 6 区 6 地点で調査を実施しており（※ 1）、このたび、令和 6 年度の結果がまとまりましたのでお知らせします。

【調査結果】

年間を通じて、各地点の濃度の範囲は、不検出（0.035 未満）～0.10 本／リットルでした。

大気環境中のアスベストには環境基準はありませんが、WHO の環境保健クライテリア（※ 2）によると、世界の都市部の一般環境中のアスベスト濃度は、1 本～10 本／リットル程度であり、この程度であれば健康リスクは検出できないほど低いと記載されておりますので、本市の調査結果についても 問題になるレベルではないと考えています。

令和6年度 一般環境大気中のアスベスト濃度の調査結果(単位:本／リットル)

No.	調査地点	アスベスト濃度(※3)	
		夏季	冬季
		8/19-20	1/22-23
1	鶴見区生麦小学校	不検出 (0.051 未満)	0.032
2	西区平沼小学校	不検出 (0.052 未満)	0.071
3	青葉区総合庁舎	不検出 (0.050 未満)	不検出 (0.035 未満)
4	戸塚区汲沢小学校	不検出 (0.048 未満)	0.10
5	栄区上郷小学校	不検出 (0.047 未満)	不検出 (0.035 未満)
6	瀬谷区南瀬谷小学校	不検出 (0.060 未満)	0.068

（※ 1）平成 18 年度から平成 21 年度まで、市内 18 地点（各区 1 地点ずつ）で調査を行ってきました。平成 22 年度からは、毎年市内 6 区 6 地点を順次調査し、3 年間で全区を調査します。

（※ 2）環境保健クライテリアとは、世界保健機関（WHO）、国際労働機関（ILO）及び国連環境計画（UNEP）が共同で実施している国際化学物質安全性計画（IPCS）において、化学物質ごとに人の健康に及ぼす影響を総合的に評価して取りまとめたものです。

（※ 3）アスベストの測定は、期間中の 24 時間の試料採取によるものです。